NAS

Nagasaki Institute of Applied Science

2011
JANUARY

学　報

No.96

編集・発行：入試広報課

特集
▶新春座談会
▶就活体験レポート

2012年　創立70周年を迎えます。

長崎総合科学大学

URL　http://nias.jp/

談会

「選ばれる学園づくり」をめざして

立70周年、附属高等学校は創立50周年を迎える。
年は新たな飛躍を期して将来への礎を築く年でもある。
活動が大きく羽ばたいた。新春を迎えるにあたって、
て理事長、学長、附属高等学校校長による新春座談会を開催した。

出席者
行德　威夫　理事長
貴島　勝郎　常務理事、学長、工学博士
玉城　保美　理事、附属高等学校校長

司会
年頭にあたって、理事長より一言抱負をお願いします。

行德理事長
皆様健やかに新年をお迎えのことをお喜び申し上げます。昨年中は、保護者の皆様を始め、同窓生の皆様、関係機関の皆様には、本学の運営に多大なご支援をいただきお礼を申し上げます。また、昨年本学学生による不祥事件が起きましたことにつきましては、皆様方に深くお詫びを申し上げますとともに、二度とこのような事件が起きないよう学生の教育と指導に全力を挙げて取り組んでまいります。

少子化、経済の低迷など昨今の社会・経済情勢の中で、私学を取り巻く環境も厳しくなっており、「学校間競争」という新たな時代の到来を迎えています。本学においても、「選ばれる学園づくり」をめざして、あらゆる面を検証し改革を行っていかねばなりません。良き伝統は残し、時代のニーズに合わないものは思い切って見直すことが求められています。今年は「改革と実行」をキーワードに学校運営を進めていきたいと思いますので、ご理解とご支援をお願いします。

司会
学校間競争の時代を迎えているといわれましたが、本学にとって「選ばれる学園づくり」とはなんですか。

行德理事長
昨年秋に「中期経営計画」を再構築しました。この計画の大きな目的の一つが「選ばれる学園づくり」です。保護者、学生・生徒の皆さんから「この学校に来て良かった」と言ってもらえる学園を教職員みんなで創っていこうという計画です。いろんな課題を一つずつ改善し、教育体制、教育環境を良くしていくことがこれにつながります。これには、人事制度や組織運営体制の再構築、責任体制の確立などの基本事項の見直しも必要です。役員及び全教職員が一丸となって取り組んでいきたいと思います。

貴島学長

貴島学長
本学の建学の精神に示されているように〝実学実践〟は本学教育のひとつの大きな柱です。本学はものづくり教育力を基本目標に、いかに世に出て役に立つ人材を育成するかに力を注いでおります。今の若者は物資の豊富なそして豊かな世の中で育ってきているせいか、種々の物理現象やそのメカニズム等にはあまり関心がない者が多いように思われます。現象を的確に捉え、そのメカニズムについて考えることや工夫すること、即ち思考力はものづくりにおいて大変重要な要素です。このことをしっかり教育していけば、高度なそして社会に貢献できる人材が育つことと考えます。このことが若者に選んでもらえる大学の重要な要素のひとつと考えております。

司会
創立以来の教育・研究指針として今言われました「ものづくり教育力」を継承していますが、これからどのように取り組まれますか。

貴島学長
ものづくり教育力はさきほど言いましたように、種々の物理現象やメカニズムを十分理解しなければ対処できないものと考えます。即ち、何に学生の学士力を向上させるかが重要なことと考えます。そのためには、幸い本学の建学精神の一項目に、〝実学実践〟があります。ものづくり教育のためには実際のものに触れて学習することが一番大事であり、また最も効果が上がるものと考えます。カリキュラムの中にも実習やインターンシップを多く取り入れて、学習効果の向上が図れるよう取り組んでおります。

昨年、本学は長崎県と人材育成の連携協定を結び、また長崎県中小企業団体中央会とも包括協定を結びそれぞれ窓口を一本化することが出来ました。今年からは、本学の教育に関する研究や地域貢献に関して活動が活発になるものと思います。このことは学生の教育や研究、あるいは課外活動等に大変役に立つことになり、実習やインターンシップ等の活動がしやすくなり、学生本人の学士力向上に繋がるものと非常に期待しております。学生達もそれらの学習に対し達成感と共に自信を得るものと確信しています。

司会
ロボットコンテストでは優秀な成績を収めたと聞きましたが。

貴島学長
昨年12月、全国から総勢343チームが参加し、地区大会を勝ち抜いてきた40チームによる「ETロボコン2010チャンピオンシップ大会」で競技部門7位となりました。

この大会は、組込み分野におけるソフトウェアデザインの技術を競い、国内のソフトウェア企業などが参加する非常にレベルの高い大会ですが、この中には全国の大学からも11チームの参加があり、学生チームの中では2位でした。本学の技術力が認められる結果となり、学生たちにとっても貴重な体験で大変うれしく思っております。

司会
「学生第一主義」が本学の教育方針でありますが、具体的にはどのように進めようとしていますか。

貴島学長
学生第一主義の基本は、学生の立場に立った教育と研究活動を充分に考慮して行い、学生自身が達成感と自信をもてるような教育体制にすることと考えています。幸い本学は大規模大学と異なり、小規模な学園であることから学生と教員の間の疎通も充分に図ることができ、少人数教育が行えることが大きな利点です。また学生一人ひとりに教員の指導が可能なため、学習面は無論のこと就職活動あるいは学生生活や課外活動等において学生と教員は密接な連携が出来ることが非常に有利であると考えています。今後もこれらの利点を基にさらに大きな成果を挙げるように進めていくつもりです。また学生生活支援センターや昨年開設した学習支援センターを中心にして学生の目線から大学での学園生活を充分に意義のあるものにするために教職員とともに努力しているところです。

玉城校長
高等学校の募集対象は中学生ですから、大学と同じ、「学生第一主義」ではなかなか理解されないと思います。そこで附属高校の募集パンフレットには「みんなの個性と笑顔が輝くキャンパス」として、その教育方針を示しています。

もちろん学校法人の「学生第一主義」という精神を具体化したものです。さらに三つの教育の柱として1、高校・大学連携の教育カリキュラム（系統的教育）2、心支える力強い味方、自己発見、実現をサポート（生徒指導）3、個性を伸ばす高校生活、課外活動の充実（個性の尊重）を掲げています。

2年次では、「ながさき私学魅力アップ事業」の一環として総合学習の時間に全てのクラスが大学の3学部7学科の体験（講義・実習）ができるよう取り組んでいます。この取り組みにより早期に理工系科目への興味関心を高め、高校での学習意欲を高めると共に進路ガイダンスにも役立てています。

新春座

2012年、学校法人長崎総合科学大学は創
この記念すべき節目の年を見据えて、今
昨年は産官学の連携や高校生のスポーツ
これからの学園づくりの所感などについ

行德理事長

司会
この3月には電気電子工学科の医療電子コースの学生が初めての卒業を迎えることになりますが。

貴島学長
平成19年4月に開設した電気電子工学科医療電子コースには25名の学生が第一期生としてこの3月で卒業を迎えることになります。わが国の大病院における臨床工学技士の不足を補うことから開設され、臨床工学技士や医療機器の開発設計等の分野を目指して学生は努力しているところです。現在、卒業予定の学生は就職も順調で、100%の内定をいただいているところです。さらに、臨床工学技士希望者はこの3月実施予定の国家試験を受験することになりますが、既に4年生はもとより3年生あるいは2年生でも数多くの学生がME（Medical Engineering）の資格をとっております。従って臨床工学技士として活躍する学生もたくさん出てくるものと期待しているところです。

司会
産官学連携のもとに、地域に貢献する研究や社会貢献も大学の大きな役割ですが、今後の展開はいかがですか。

貴島学長
大学にとって社会貢献、地域貢献は果たすべき大きな使命のひとつです。本学ではバイオマス資源やメタンガス醗酵技術の開発など新しいエネルギー開発や、IT関連の研究を基盤にした都市エリアプロジェクトなど、本学ならではの開発技術、応用技術を核にして社会貢献を積極的に進めております。先ほど申し上げましたように、昨年本学は長崎県や長崎県中小企業団体と連携協定を結ぶことが出来ました。さらに〝長崎新生産学官連携コンソーシアム〟が立ち上がり、本学も代表機関の一つとして長崎県、大学、産業界等が連携して長崎県を飛躍的に発展させるべく活動を始めたところです。この中で本学は、学内の大きな特徴でもある、バイオマス資源、特に草木や間伐材等を資源とする新しいエネルギーの実用化、下水汚泥を資源とするメタンガス醗酵技術さらに太陽光を資源とするソーラーエネルギー等を中心にした〝東長崎エコタウン構想〟の実現化に向けて活動を開始しているところです。

司会
これらの包括協定や連携協定は、これからの本学の展開にも重要な意義があると思いますがどうですか。

行德理事長
大学は、教育研究活動の場でありますが、その成果は社会や地域に貢献したり、還元されるものでなくては意味がありません。そこで先ほど学長が申し上げた産官学の連携を通じていろんな活動を行っており、これを広く進めております。いろんな企業とも交流や結びつきが生まれ、地域産業の振興だけでなく企業との連携を通じて学生の就職活動にも寄与するものと思っています。

貴島学長
長崎県中小企業団体中央会との包括協定では、企業あるいは社会が求めるニーズと、大学が保有しているシーズをうまく連携させることにより研究成果を実用化することが可能となり大学にとって非常に有益なことです。さらに研究開発の過程で、学生や企業の人材の育成に繋げることができるし、特に学生にとっては、在学中の実社会体験や、インターンシップあるいは実習などを通して将来の進路や目標が明確になるなど大きな利点があります。また、コンソーシアムにおける連携協定では自治体や大学、企業あるいは地域自治会等との連携が必要になりますので、本学独自の活動だけではなく長崎県全体など大規模な連携活動が不可欠になります。このことは大学が本来保有する使命を充分に発揮することが出来ることから極めて有用なことと考えています。

司会
昨年は附属高校生のスポーツ活動も大きな話題になっています。ずばり今年の目標をお願いします。

玉城校長
一昨年から強化指定クラブとしてサッカー部、野球部、ヨット部を強化して来ましたが、昨年からその成果が徐々に発揮され始めました。ヨット部は高総体団体優勝こそ逃したものの個人戦では九州大会やインターハイでの活躍が光りました。サッカー部、野球部も県大会での上位入賞は果たせませんでしたが、地区大会や県大会での活躍は新聞でもたびたび話題となりました。強化指定クラブではありませんが、バレー部の活躍も立派でした。さて、今年の目標ですが、やるからには優勝を目指して欲しいと思います。頂点に立つことは一長一短にはかないませんが、常にそこを目指して頑張ることで、やがて本物の実力を身に付け、どの大会においても優勝候補に名を連ねることになると思います。その姿が、一緒に附属高校に学ぶ生徒達に自信と勇気を与えてくれると信じています。

ところで、私は昨年10月に実施した文化祭の「創ろう総附伝」というスローガンが大変気に入っています。今年が輝く「総附伝」のスタートの年になることを願っています。

行德理事長
高校生のスポーツ活動は、愛校心への目覚めを始め、若者に必要な連帯感、挑戦する力、努力と忍耐の必要性などをスポーツを通じて植え付けていくものであり、これから社会に出ていく上で有用な人格の形成でもあります。校長の目標が達成できるよう大いに期待しておりこれを支援してまいります。

司会
最後に、本学は創立70周年を迎えようとしていますが、これに向けての抱負をお願いします。

行德理事長
平成24年度に学校法人長崎総合科学大学は創立70周年、附属高等学校は創立50周年を迎えます。これまでの本学園の歴史と伝統の歩みを顧み、新たな飛躍を期して将来の礎を築く大きな岐路であります。この記念すべき節目の年に向けて、同窓会や後援会、学生などと協働して記念事業を実施したいと考えています。皆様のご理解とご賛同をお願いします。

玉城校長

就活体験レポート

文部科学省と厚生労働省より、今春卒業予定の大学生の10月１日時点の就職内定率について、大学生全体の内定率は57.6%（前年同期比4.9ポイント減）という発表があった。これは「就職氷河期」と呼ばれる2000年前後も下回り、調査を始めた1996年以降で最低となっている。中でも理系や女子大生の苦境ぶりが際立っているほか、地域格差も鮮明になっている。

こうした厳しい就職環境のなか、内定を得た13名の本学学生の就活体験レポートを紹介する。

1．氏名（敬称略）
2．学部・学科・コース
3．出身高校
4．内定企業名（本社所在地）
5．就活体験レポート

設備工事 電気系技術者

1　**松尾　拓己**
2　工学部電気電子工学科
3　長崎南山高等学校
4　**協和機電工業株式会社**（長崎市）
5　・活動内容は、企業の説明会を通じ、自己分析を行い自分がどういった性格で何を軸にして行動していたのかということを重視して活動した。
・印象に残ったことは、ひとりで行動することが当たり前なのですべて自己責任になること。
・苦労したことは、知らない土地での行動、寝泊りをするとき。
・よかったことは、友人との就活についての話し合いをすることにより自分が目指したい業種、業界を明確にすることができた。
・本学の学生のために行われる大学主催の合同企業面談会で多くの企業を知ることができた。長崎県内からの参加企業も多く、県内に残りたいと思う学生には非常に助かりました。

農業協同組合

1　**谷坂　康介**
2　人間環境学部環境文化学科
3　長崎県立川棚高等学校
4　**長崎県央農業協同組合〈JA長崎県央〉**（諫早市）
5　私は就職活動を始める時期が他の人よりも遅く、５月から始めました。そのため情報収集が遅くなり、その点で苦労しました。しかし、就職活動を通じて、常識等について勉強になりました。
就活する地域は早めに絞っておくと就活しやすいです。
また、地域の情報誌の求人にも目を通すことをオススメします。

研究所 研究員

1　**濱田　達也**
2　大学院工学研究科修士課程生産技術学専攻
3　長崎総合科学大学附属高等学校
4　**独立行政法人　海上技術安全研究所**（東京都）
5　１月に船舶工学科の先生から海上技術安全研究所のことを教えてもらいました。それから、本学で企業説明会があったのでそれを聞きました。説明会でインターンシップを行っていることを聞いたので３月に１週間行かせてもらいました。インターンシップでは、大型の実験施設での模型船を用いた水槽試験を主に見せてもらいました。また、その他の様々な実験施設を見ることができました。見せてもらった実験施設には、やってみたいと思うものもあったので見学することができてよかったです。インターンシップにきて、どのようなことをするのか見て体験することができ、さらに、研究所に入ったときにどのようなところに住むのかを見ることができて就職活動に役立ちました。

病　院 臨床工学技士

1　**廣瀬　彩子**
2　工学部電気電子工学科医療電子コース
3　長崎県立長崎北高等学校
4　**医療法人厚生会 虹ヶ丘病院**（長崎市）
5　私は祖母と一緒に暮らしていて、兄弟が多いので、少しでも近くで家族の負担を減らせたらと思い、長崎県内で病院を探していました。
そして、虹が丘病院の推薦を頂いたので、面接に対応できるよう、さらに調べて面接の練習をしました。

製造業 技術職

1　**深堀　一成**
2　工学部機械工学科
3　長崎県立大村工業高等学校
4　**株式会社イワサキ**（大阪府）
5　遠方で、しかも地元からの採用が多い企業だったので説明会や試験の日程調整などに苦労しました。その点を考えると地元で就活した方が有利ではあると感じました。
一方で、プラスに働いた面もありました。受験理由等をしっかりと説明出来れば遠方から来たこと自体がアピールポイントの一つとして成り立ちます。
面接ではそこを十二分に生かすことで、他の受験者とは違った印象を残すことが出来た。

銀　行 総合職

1　**大栗　真美**
2　情報学部経営情報学科
3　長崎県立長崎南高等学校
4　**株式会社長崎銀行**（長崎市）
5　私は、主に文系職希望で就職活動を行ってきました。文系職種は理系職種に比べて１社あたりの採用人数が少なく、かつそこに多くの学生が受験するので、次のステップに進むことがとても難しかったです。そのため、できる限りの企業を受験するように心掛けました。また、同じ内容の履歴書やエントリーシートでも、通過するところもあれば、通過しないところもあり、何度も文章の添削を行いました。面接に関しては、何度も友人などと面接練習をし、どこが良くないか、こう変えたらもっと良いのではないかと意見を出してもらいました。
就職活動を通じて、私は“自分”を知り、周りで支えてくれる人のいることの大切さ、有難さを学ぶことができました。

酒類・食品商社
総合職

1 **山田　浩平**
2 情報学部経営情報学科
3 長崎県立波佐見高等学校
4 **日本酒類販売株式会社**（東京都）

5 私は３年生の11月から説明会に参加しました。エントリーシートや履歴書は12月から書き始め提出しました。始めの頃は説明会に参加しても質問も出来ず、書類も全く通らず凄く辛かったです。しかし諦めずに就職課の方などに添削して頂き書き続けました。そうすると３月くらいから書類が通過するようになり、面接に呼んで頂けるようになりました。
面接は本学の「就活スキルアップ講座」やフレッシュワークの「面接対策」で練習を積んでいたせいか意外とスムーズにいきました。
そして５月と６月に２社ずつ内定を頂きました。
大学内には就職活動を支えてくれる方がたくさんいます。また講座なども開設して頂いているので是非参加してみてください。

航空関連サービス業
コミュニケーティングクルー

1 **龍美　裕子**
2 人間環境学部環境文化学科
3 長崎県立鳴滝高等学校
4 **ANA テレマート株式会社**（本社：東京都、配属先：長崎支店）

5 就活中、使えるものは何でも使っていたように思います。特に大学の就活支援にはとても助けていただきました。３年の将来計画フォーラムでいただいた“就職活動の手引き”は手放せなかったです。常に持ち歩いていて、何をするにも“手引き”を読んでいました。
また、就活支援の一環で模擬面接を受けました。面接練習は、自分の良いところ・悪いところを知ることができるいい機会だと思います。私は学科主催で一般企業の採用担当の方をお招きして模擬面接をしていただきました。学科などでのまとまった機会がなければ就職室や学科の就職担当の先生に相談して面接練習をしていただくのもいいと思います。
それから、大学主催のメイク講座もとても参考になりました。プロの方が詳しく説明してくださるので、就活メイク以外にも応用できると思います。残念ながら男子向けには開講されてないようですが、女子はせっかくの機会なので参加すべしです。

製造業
造船エンジニア

1 **村上　憲人**
2 大学院工学研究科修士課程生産技術学専攻
3 宮城県立気仙沼高等学校
4 **株式会社名村造船所**（大阪府）大証１部上場

5 私の就職活動は、就職室に行くことから始まりました。本学の就職室には膨大な企業の就職情報や先輩方が受けた試験の大まかな内容が企業毎にファイリングされており、筆記試験や面接試験では、とても参考になりました。その結果、第１希望の企業に内定を頂くことが出来ました。インターネットで企業 HP を閲覧するだけではなく、就職室を利用したことが内定に結びついたと思います。

建設業
施工管理

1 **村田　龍介**
2 工学部建築学科
3 長崎県立諫早高等学校
4 **株式会社イチケン**（東京都）東証１部上場

5 就職活動中に、他の大学から来ている学生と話ができて、就職状況などの情報交換ができ、良い刺激になりました。一方で、東京などの遠方へ行った場合の宿泊施設探しや道、ことばなどに苦労した部分もありました。

建設業
CADオペレーター

1 **外園　美緒**
2 工学部建築学科
3 大口明光学園高等学校（鹿児島県）
4 **シンヨー株式会社**（神奈川県）

5 ・就活を始めた頃は建築関係の仕事に就ければ営業でもいいかな…というような気持ちで面接を受けていたので、質問されたことに答えられなかったり、ちょっと違うことを言ってしまっていました。けれど、本当に興味を持った仕事、会社では試験が楽しく、素直な気持ちで答えることができました。なので、自分についてよく知ることを大切にしたほうがいいと思います。
・本学では、履歴書やエントリーシートの添削を就職室のスタッフの方にしていただいたり、相談できる場があり、役立ちとても良かったです。

ソフトウェア業
システムエンジニア

1 **片山　智弘**
2 情報学部知能情報学科
3 宮崎県立佐土原高等学校
4 **株式会社富士通九州システムズ**（福岡市）

5 就職活動は、将来自分がしたい事や働く姿を明確にでき、それに向けての第一歩だと感じました。就職活動を行っていく上で、まず多くの企業を比較し、どのような仕事があるか理解し、自分が何をしたいか明確にしました。そうすることで、志望動機や履歴書をスムーズに書けると考えたからです。就職活動をしていく中で、何度も受験し場数を踏むことで、面接の雰囲気に慣れることができ、自分の思いを伝えやすくなったと思いました。また、より良い就職ができるように、独自の目標を持つなどして取り組みました。例えば、面接予定時間が30分の場合、さらに10分長く出来るようにしたり、説明会の会場などで他大学の学生と交流してみたりしました。
印象に残ったこと
・面接を重視する企業が多いこと。
良かった点
・様々な仕事を知ることができた。
・理想の社会人になるためにすべきことが分かった。
・初対面の人と話すことに、苦手意識がなくなった。
・時間を有効的に使えるようになった。
・打たれ強くなった。
苦労した点
・交通費などの金銭面
・履歴書、エントリーシートの提出
本学の支援体制
・合同企業説明会の会場までの無料送迎バスがあり良かった。

製造業
エンジニア

1 **辻田　昌平**
2 工学部船舶工学科造船技術コース
3 長崎総合科学大学附属高等学校
4 **三菱重工業株式会社長崎造船所**（東京都）東証１部上場

5 SPI などの筆記試験の勉強や、就活のための体力づくり、社会人の方々との飲み会などを通じて、本音の情報収集を心がけました。
苦労した点は、時間が足りなくて、時が過ぎるのが早いと感じたことや不安な気持ちが高ぶったりした時期もありました。
一方で、就職活動を通じて、様々な知識が増え、自分に何が足りないかがわかったことが良かったです。
大学主催の合同企業説明会は非常に良い機会だと感じました。

公開講演会

2010年度長崎総合科学大学公開講演会を９回に亘り開催しました。多数の一般市民・関係者・学生・教職員の参加のもと無事終了することができました。

10月23日 『電子技術が医療の未来を開く』

基調講演を、東北大学大学院医工学研究科教授田中徹氏が、生体とエレクトロニクスを融合させた最先端の医療技術をテーマに講演した。現在治療が行われている、医療器具の人体埋込み事例の人工内耳装置や、パーキンソン病の治療に用いられている脳深部刺激療法など、革新的な先端医療の紹介がなされた。

続いて本学の清山浩司講師は「人工視覚システムの研究開発」について紹介。失明した患者にもう一度光を取り戻そうと、光を感じる網膜の代わりに、人工網膜 LSI を眼球内に埋め込み神経節細胞を電気刺激することにより、脳で視覚を再生させることが可能と解説。動物実験で実証していることが明かされた。

10月30日 『日本を支える組込み技術』
～国の組込み技術動向、大学の研究・教育について～

（独）情報処理推進機構の門田浩氏が、「組込みシステム産業に求められる方向性」と題し、組込みソフトウェア産業の現状と概要について講演した。経済危機の今だから産業構造改革を行う最適なタイミングと提示し、広い定義で変革の方向性を述べた。

続いて、東海大学専門職大学院教授の大原茂之氏が、「組込み技術による産業構造革命の時代における大学の研究と人材育成」と題し、日本における組込みソフトウェア技術の強みと課題を解説し、製造業から技術開発へと産業構造改革が進行している中、人材育成の重要性を強調した。

パネルディスカッションでは、組込み技術開発環境の設備経費や企業が大学に求める技術者としての資質について議論が及んだ。

9月26日 『アメリカズ・カップへの挑戦』

船舶及びヨットの開発設計で活躍されている ACT 代表取締役金井亮浩氏が、ヨットレースの最高峰「アメリカズ・カップ」への取り組みと魅力について講演した。

金井氏は、アメリカズ・カップに「ニッポンチャレンジ」と「イギリス GBR チャレンジ」のスタッフとしての参加経歴を持ち、アメリカズ・カップの概要と歴史を振り返りセイルクルーのテクニックから艇のハイテク化へと移り変わった技術の進歩と、最新の技術が結集したレース艇について解説。艇のデザインと構造のバランスが重要であることを説明した。

また、1995年と2000年に参戦したニッポンチャレンジの全容やレースについても説明があり、会場はその技術の高さに圧倒された。

11月13日 『観光産業の活性化と地域づくり』
～世界遺産の位置づけ～

基調講演を、NPO 法人軍艦島を世界遺産にする会の坂本道徳氏が、軍艦島（端島）の歴史と概要について、島の繁栄と閉山・無人島化していく過程を講演した。坂本氏は子供時代、軍艦島に居住し閉山まで過ごした経験を持ち、炭鉱開発前から現在の上陸観光までを、写真で紹介しながら当時の様子を振り返り愛着を持って話された。

続いて本学の林一馬教授が、世界遺産登録活動に関連して、ユネスコ世界遺産の登録基準等の概要を解説し、日本におけるこれまでの取り組みと登録状況、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の活動の動向を紹介した。

パネルディスカッションでは、軍艦島と教会群を中心に、地域の中での世界遺産のあり方・位置づけ、活用方法やまちづくりに生かされる方法を模索した。

10月7・8日 『わが国の航空宇宙開発』

JAXA 宇宙航空研究開発機構で活躍されている４名の研究員を講師に招き、航空機材料の研究と新素材の開発、宇宙開発の現状に至るまでの幅広い講演が行われた。

JAXA 研究開発本部グループ長永尾陽典氏の講演は、航空機産業の実情を、運航台数や生産規模、市場の概況から紹介。また、国産飛行機の歴史を振り返り、各機体の特徴を話した。飛行機に使用されている複合材の適用部位について触れ、旅客機から軍用機まで図解を元に解説した。今後の課題として、複合材の「低コスト化製造方法の開発」「高性能化」を挙げ、これからの研究へ意欲を見せた。

他にも航空機・宇宙開発にまつわる講演が行われ、会場の参加者は滅多に聞くことができない話に興味深く耳を傾けていた。

11月27日 学科創設45周年記念シンポジウム『建築』への思いと実践

建築学科創設45周年を記念するシンポジウムとして同時開催し、長崎を中心に活躍されている４名の卒業生を講師に招き、建築に関する幅広い内容の講演が行われた。

長崎市建築住宅部長の御所健剛氏は、長崎市の建築行政の概要と法令の内容、建築行政指導について解説。以前は主な建築物は自主設計で作図していたが、現在は諸工事を除き外注へ移行している現状を話した。

引き続き、長崎県内で建築設計事務所を経営する３名の卒業生が、それぞれの施工事例をもとに特長や工夫を加えた箇所について詳しく解説した。

シンポジウムでは、４名の講師がパネリストとなり、各自の経験をもとに、印象に残った仕事や設計事務所の運営、人材育成、失敗談などについてディスカッションした。

10月20日 『地域活性化の動向』
～農商工連携等の事例を交えて～

地域活性化のため全国を舞台に活躍されている農林水産省大臣官房政策課企画官の木村俊昭氏が、地域活性化に取り組んでいる全国の様々な事例を論理的な視点で、特徴と要点について講演した。

木村氏は、地域の人々が地元の産業文化をしっかり学び、地域から世界へ発信しようとする姿勢を持つことが大切と説き、その人材を育成することや、地域の独自性に気づくこと、客体から主体的になること、バラバラで動くのではなく一体化する、などの地域活性化を推進するキーワードを挙げた。

観光客がもう一度来たくなる印象を持たせるような気持ちよい応対を心掛け、元気よく、明るく、プラス思考で、モチベーションを上げることが活性化やまちおこしに重要と強調した。

2010年 NIAS 重大10大NEWS

第17代学長に貴島勝郎氏を再任

学校法人長崎総合科学大学理事会は、平成22年11月13日開催の第３回理事会において、学長選考規程第６条に基づき現学長の貴島勝郎氏を再任した。任期は、平成23年４月１日～平成25年３月31日までの２年間。専門分野は流体力学、海事流体力学、操縦制御工学、船舶復原性など。宮崎県出身。工学博士。

「ETロボコン2010九州地区大会」で本学学生チーム「NiASET」が総合３位！チャンピオンシップ大会(全国大会)に出場

「ETロボコン2010九州地区大会」（主催：組込みシステム技術協会）に本学情報学部知能情報学科の学生を中心とした「NiASET」チーム（顧問：下島真教授、代表：中嶋倫也君）が長崎県のチームとしては唯一参加し、総勢46チームが集まる中、総合部門で見事、第３位に入賞。「チャンピオンシップ大会」（12月１日・２日、於パシフィコ横浜）に出場した。（詳細Ｐ９）

「2010柳川ソーラーボート大会」で３位入賞

「2010柳川ソーラーボート大会」（大会実行委員会主催）が福岡県柳川市で開催され、本学工学部船舶工学科の「夢の船研究会」が、スラロームレース、周回レース決勝でともに３位入賞という好成績を収めた。（詳細Ｐ10）

長崎県との人材育成の連携協力協定締結

長崎県の基幹産業である造船業や、今後成長が期待される環境・新エネルギー分野の産業を支える人材育成を連携して取り組むことを目的に、本学と長崎県は人材育成連携協定を締結した。（詳細Ｐ８）

長崎県中小企業団体中央会との産学連携に関する包括協定締結

長崎県の中小企業支援の強化と地域経済活性化を目的に、本学と長崎県中小企業団体中央会は産学連携に関する包括協定を締結した。（詳細Ｐ８）

附属高校の教員と生徒が国体サッカー競技選手に選出

千葉県で開催された第65回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体2010」の長崎県選手団のサッカー競技選手に、附属高等学校の吉住貴士教諭（成年男子）と１年生の田中佑昌君と吉岡雅和君（少年男子）の３名が選出され、活躍した。（詳細Ｐ13）

大学生がスポーツで活躍

第10回全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会2010」に情報学部経営情報学科２年生の橋本佳一君が県代表選手として選出され、陸上競技「砲丸投げ」と「ジャベリックスロー（やり投げ）」において優勝し、２種目制覇を成し遂げた。

また、本学弓道部の濱本洋輔君（工学部船舶工学科３年生）が第48回九州学生弓道選手権大会（九州学生弓道連盟主催）の男子個人戦で第３位と健闘した。（詳細Ｐ10、11）

学習支援センターを開設

４月より新たに学習支援センターを開設。センターでは基礎学力向上をめざし、英語・数学の集団学習を行うとともに、自習しながら質問できる個別学習スペースも確保している。

附属高等学校生徒寮「創新寮」が完成

附属高等学校生徒寮が５月に完成した。生徒寮は本学職員住宅を改修し建設したもので、附属高等学校から徒歩約５分。３階建てで、室数は10室。１室が３部屋に分かれており、１室あたり６名、全部で60名の収容が可能。食堂及び浴室棟も新築され併設されている。

文部科学省の「科学技術白書」に本学の研究技術が掲載される

文部科学省発行の「科学技術白書（平成22年版）」に本学の研究技術「バイオマスエネルギー技術」と「都市エリア産学官連携促進事業」の研究内容と成果が詳しく紹介された。「科学技術白書」は文部科学省のホームページで閲覧できる。

12月12日 国境と戦争：北緯50度からみた「平和」

北海道大学の岩下昭裕氏が、北方四島の領土問題にまつわる経緯と国内の国境地域の諸問題を歴史的にひも解きながら解説した。

岩下氏は、現在の国境は最近できたものと話し国境の定義や概念を説明。日本の領土について、日清戦争から第二次世界大戦、現在までの範囲を地図で示しながら、戦争によって領土が広がり、また縮小に辿ったと解説した。他の国境地域（対馬、与那国、小笠原）について経済的・国際的な交流が行われている現状に触れ、北方四島に近い根室はこれらに比べ異質で、日本とロシア双方が領土を主張している関係上、交流ができず行き詰っている問題を明かした。領土問題は北に限らず西や南においても関連性があり全体の中で起こっていると指摘、これらを結び見直すことにより今後の日本のあり方が見えてくると話した。

11月27日 『造船技術と宇宙開発 海そして宇宙へ』

本学が初めて県外で開催する公開講演会『造船技術と宇宙開発　海そして宇宙へ』が、愛媛県今治市の今治地域地場産業振興センターにおいて開催され、造船業関係者や本学卒業生など約80名が来場し講演に耳を傾けた。

宇宙開発や造船技術をテーマに４つの講演が行われ、本学卒業生でJAXA宇宙航空研究開発機構客員研究員の星光氏の講演は、宇宙にまつわる世界と日本の歴史を紹介し、人類がこれまで歩んできた宇宙開発の足跡を辿った。ロケットやスペースシャトル、人工衛星、宇宙ステーション、宇宙飛行士、宇宙での生活の様子や、宇宙食、小惑星探査機「はやぶさ」に至るまで、宇宙開発のエピソードをわかりやすく解説した。

その後懇親会も行われ、貴重な意見交換の場として、会場は賑わった。

産官学連携

長崎県

人材育成の連携協力協定を締結

長崎県の基幹産業である造船業や、今後成長が期待される環境・新エネルギー分野の産業を支える人材育成を連携して取り組むことを目的に、本学と長崎県は6月22日㈫、人材育成の連携協定を締結した。

これは、長崎地域経済活性化のために産官学が連携して造船産業や関連産業分野あるいは環境エネルギー分野などにおいて、企業ニーズに対応した技術力を修得し地域で活躍できる人材を育成しようとするもの。

本学では、県内企業在職者を対象とした研修会の実施や企業との意見交換会などを実施。本学学生へは、就業力の向上と就職先の確保のため、企業経営者による講座や企業へのインターンシップを実施する計画。

人材育成講座が開講

長崎県との間で締結した人材育成に関する連携協定に基づき、初の講座開催となる「高度溶接管理技術者講座」が9月2日㈭～11日㈯シーサイドキャンパスの講義室にて実施され、企業在職者26名、大学院生4名の計30名が受講した。

この他にも「組込ソフト研修」、「3D映像シミュレーター研修」がグリーンヒルキャンパスにて、11月から3月にかけて実施される。

長崎県中小企業団体中央会

産学連携に関する包括協定を締結

長崎県の中小企業支援の強化と地域経済活性化を目的に、本学と長崎県中小企業団体中央会は10月12日㈫、産学連携に関する包括協定を締結した。

これは、長崎地域経済活性化のために本学と企業が連携して、相互の得意分野の特色を生かしながら、大学の研究シーズと企業ニーズの接点を創出し、実用化に向けた支援や補助、技術的コーディネート等、組織的な産学連携を推進しようとするもの。

本学では、研究成果を地元産業の発展に寄与することができ、産業界のニーズを把握することと技術活用の可能性を知ることにより、教育・研究のモチベーションに働きかけることが期待される。

長崎〝新生〟産学官連携コンソーシアムが発足

長崎県と本学を含む県内3大学、高等専門学校、経済団体、研究機関が共同して研究開発を推進しようと11月30日㈫、長崎大学において「長崎〝新生〟産学官連携コンソーシアム」の発会式が行われた。

本学からは貴島勝郎学長と産官学連携センターの教職員が出席し、貴島学長が発足式の議長に選出され議事進行を行った。

コンソーシアムの会長に中村法道知事が就任し発足の挨拶を述べられた。

これから取り組むプロジェクトの3件が紹介され、このうち本学が提唱する「東長崎エコタウン構想」が盛り込まれた。

「東長崎エコタウン構想」とは、本学が立地する東長崎地区に低炭素化社会に向けた未来型エコタウンをつくる構想で、下水処理施設のメタンガス発電やバイオマスガス発電施設を設置し、スマートグリッド技術により地域の電力消費量を最小限に抑え、CO2発生を減らしながらエネルギーの地産地消を図る循環型社会の構築を目指す。

地域連携研究会は、本学のユニークで先進的な研究成果を広く理解していただくとともに、東長崎に立地する教育研究機関として、地域への貢献と発展を地域の皆様と一緒になって考えていく研究会です。

毎月1回、本学教員の他、公共団体や民間企業の方を講師に、地域貢献につながる研究テーマを発表しています。一般の方、学生の来場も歓迎いたします。

毎月ホームページで開催告知を行っておりますので、ご興味のある方はお気軽にご来場ください。

産官学連携センター

産官学連携センターは、産官学連携事業を全学的かつ組織的な取り組みとして積極的に展開し、受託研究や共同研究の推進、知的財産権の取得と活用、新技術・新事業の創出等によって、本学の研究成果を社会へ還元し、地域産業の発展に寄与することを目的とします。

「技術相談」「起業支援」「共同研究」「受託研究」「奨学寄附金」

産官学連携センター
窓口 研究助成推進課
TEL：095－838－5116・5200
FAX：095－838－3157

TOPICS ❶ 「ETロボコン2010九州地区大会」で本学学生チーム「NiASET」が総合3位！ チャンピオンシップ大会（全国大会）でも大健闘！

「ETロボコン2010九州地区大会」（主催：組込みシステム技術協会）が9月4日㈯、5日㈰、開催され、情報学部知能情報学科の学生を中心とした「NiASET」チーム（顧問：下島真教授、代表：中嶋倫也君）が長崎県のチームとしては唯一参加し、総勢46チームが集まる中、総合部門で見事、第3位に入賞した。これは大学生チームに限ると九州大学（総合部門第5位）を抑え堂々の1位という快挙。

そして、12月1日㈬、2日㈭に神奈川県横浜市のパシフィコ横浜で開催された「チャンピオンシップ大会（全国大会）」に出場し、競技部門で40チーム中7位、大学チームの中では2位となる成績を残すなど大健闘。来年度以降のますますの活躍が期待される。

◇ETロボコンとは？

日本の産業競争力に欠くことのできない重要な「組込みシステム」分野における技術教育をテーマに、決められた走行体で指定コースを自律走行する競技。同一のハードウェアに、UML等で分析・設計したソフトウェアを搭載し競うコンテスト。

全国大会に出場した「NiASET」チーム

本学チームのスタートの様子

設計したソフトウェアを搭載した『二輪倒立振子型』走行体のロボット

TOPICS ❷ 就職支援　「大学主催　合同企業面談会」を開催

長崎総合科学大学主催の合同企業面談会（A日程）が12月16日㈭、ホテルニュー長崎にて開催された。これは、学生の就職支援を目的に毎年開催しているもので、今年で11年目。主に平成24年3月卒業見込者（現3年生）を対象としている。

厳しい雇用情勢が叫ばれる中でも、採用計画がある九州圏外の企業62社が参加。学生も3年生を中心に約270名の参加があった。

各ブースでは、採用担当者が業務内容や採用計画について資料や映像を示しながら説明し、学生は真剣な表情で面談に臨みメモを取りながら話を聞いていた。また本学の卒業生が採用担当者として参加しているブースも見られた。

会場では、学長をはじめ教員も多数出席し、企業との情報交換に積極的にブースを訪ねていた。

なお、2011年2月14日㈪の合同企業面談会（B日程）では、主に九州圏内の企業を招待し開催するよう予定している。

会場の様子

面談会の様子1

面談会の様子2

TOPICS ❸ 学園祭「第47回造大祭」を開催

学園祭「第47回造大祭」を、11月6日㈯、7日㈰の2日間、本学グリーンヒルキャンパスにおいて開催した。今年のテーマは「造大伝」。

学生が運営する模擬店をはじめ、ラムネ早飲み大会、BINGO大会、ゲストLIVE、音楽系サークルのLIVE、沖縄県人会によるエイサーの演舞、キャリア・ネット・カフェ部によるダンス&ソーラン節の演舞、外国語によるスピーチコンテストのほか、各学科やサークルによる展示も実施され、多くの来場者で賑わった。

今年はスペシャルゲストとして元お笑い芸人、手相占いで話題の島田秀平さんによる「手相トークライブ」が大学体育館にて開催され、抽選で来場者が実際に手相を見てもらえるなど、楽しいライブが繰り広げられた。

TOPICS ❹ 「2010柳川ソーラーボート大会」で船舶工学科の学生チームが３位入賞

「2010柳川ソーラーボート大会」（大会実行委員会主催）が７月31日㈯、８月１日㈰の両日に福岡県柳川市で開催され、工学部船舶工学科の「夢の船研究会」（顧問：林田滋教授）が、スラロームレース、周回レース決勝でともに３位入賞という好成績を収めた。

参加艇は、一般部門（大学を含む）14艇隻、学生29艇の合計43艇。

活躍した夢の船研究会メンバー

表彰式の様子

TOPICS ❺ 学生が企画した大学生のための「就職活動応援イベント」が開催される

学生間同士で就職や将来に関するネットワークを構築し、部活動として、ともに厳しい就職戦線を乗り切ろうとする本学のキャリア・ネット・カフェ部【部長：時尾信一郎君（情報学部知能情報学科２年生）】が、12月４日㈯に長崎市内のカフェで、「就職活動応援イベント『就活 Beginner Cafe』」を開催し、約30名の学生が参加した。

イベントでは今年の厳しい就職活動に直面し内定した４年生からの就職活動体験報告や２年生、３年生による自己 PR コンテストなどが実施され、内定した４年生が審査やアドバイスを行った。

その後、就職活動や将来の進路に関する情報交換会も実施され、学生たち同士で将来や就職に向けたヒントを探った。

当日は、報道関係５社も取材に駆けつけ、全国の大学生の厳しい就職状況やこうした学生たちの主体的な取り組みに対する関心の高さが伺えた。

なお、キャリア・ネット・カフェ部部員は、４年連続で内定率100％を達成している。

集合写真

自己 PR コンテスト

就活イベントの様子

TOPICS ❻ 九州学生弓道選手権大会で濱本君が男子個人３位

第48回九州学生弓道選手権大会（九州学生弓道連盟主催）が10月22日～24日の３日間、福岡県のアクシオ福岡で開催され、弓道部の濱本洋輔君（工学部船舶工学科３年生、広島県立呉工業高校出身）が見事、男子個人３位に輝いた。

この大会での男子個人戦は九州地区の大学から数百名が参加し、特に３年生は引退試合となるため、各大学の精鋭が集うハイレベルな大会。濱本君は大学から弓道をはじめたにもかかわらず、この大会で３位という快挙ともいうべき見事な成績を残した。本人も「大学生最後の大会でこのような好成績を残せて嬉しい反面、まだ夢のような気分。弓道は就職してからも続けていきたい」と心境を語った。

TOPICS ❼ 「九州・山口 EMS 学生シンポジウム」が開催される

「九州・山口 EMS 学生シンポジウム～今後の EMS に向けて、私たちができる事～」が11月13日～14日㈰、九州・山口地区の５大学の学生約40名が参加し、本学で開催された。

これは、エコ・環境活動に係る大学間の交流を深め、そのネットワークをよりよいものにして今後の活動に活かそうと、環境・建築学部人間環境学科の学生環境活動グループ「ISO の家」が主催し今回で４回目の実施。

参加した学生はみな環境問題に対する意識が高く、EMS 活動についても共通の課題認識があり、同じ志を持つ学生同士での交流の輪が広がった。

※ EMS とは Environmental Management System、和訳：環境マネジメントシステムの略称。

ワークショップでは活発な意見交換が行われた

TOPICS ❽ ロボコンサークル「NiAS夢工房」が「ものづくりフェスタ2010」に出展

「ものづくりフェスタ２０１０」（主催：長崎県、長崎県職業能力開発協会、長崎県技能士会連合会）が11月28日㈰、長崎市浜町のベルナード観光通りで開催され、ロボコンサークル「ＮｉＡＳ夢工房」が出展した。

本学の展示ブースでは「ロボットを操縦してみよう」と題してＮＨＫ大学ロボコン２００９に出場したマシンの操縦体験を実施。子供たちや家族連れなど、たくさんの人が楽しく操縦を体験し、道行く人々の関心を誘っていた。

「ＮｉＡＳ夢工房」は、ＮＨＫ大学ロボコン出場にし、２００９年の大会は国内ベスト８でデザイン賞と特別賞を受賞。過去には準優勝やベスト４など、輝かしい実績を残している。

子供たちに人気のロボット操縦

TOPICS ⑨ 「ながさき県エコフェスタ2010」でバークガフニ環境・建築学部長が基調講演。学生環境活動グループ「ISOの家」もエコ活動の発表と出展

環境活動やエコに対する意識を高めようと、「ながさき県エコフェスタ2010」（主催：長崎県他）が12月4日㈯、松が枝国際ターミナルで開催された。

このイベントには、身近なエコ活動を実施している団体から、次世代環境技術に関する団体など24の団体が出展。環境・建築学部人間環境学科の学生の環境活動サークル「ISOの家」も「廃油をキャンドルに再利用したオリジナルキャンドル作り」のコーナーを出展した。

午前中には、5つの大学、高校などによる「学生のエコ活動発表」が行われ、環境活動サークル「ISOの家」副代表の市來宗士君（人間環境学科2年生）が、環境に関する国際規格「ISO14001」の認証からその維持に関する活動内容、地域と連携した環境活動に関する取り組みなどを発表した。

午後からは、環境・建築学部長のブライアン・バークガフニ教授が「龍馬の時代から見る長崎の歴史と環境をひもとく」と題して基調講演を行った。講演では、当時の写真を紹介しながら、日本人と外国人の若者同士の交流活動は勿論、オランダ屋敷のある南山手、東山手などで木々が少ないのは、燃料として木材が多く使用されていたためだと考えられるなど、当時のエネルギー事情についても紹介があった。

基調講演するバークガフニ環境・建築学部長

ブース出展した学生環境活動グループ「ISOの家」のメンバー

TOPICS ⑩ 澁谷顕一共通教育センター准教授が「日本生理人類学会奨励賞」を受賞

この度、澁谷顕一共通教育センター准教授が、日本生理人類学会奨励賞を受賞し、授賞式が10月31日㈰に日本生理人類学会第63回大会総会において執り行われた。

澁谷准教授の受賞論文は「Bilateral Motor Control during Motor Tasks Involving the Nondominant Hand. (Journal of Physiological Anthropology 28:165-171,2009)」。

この研究は、脳から筋疲労のメカニズムの解明にアプローチしたもので今後更なる発展が期待されるとして日本生理人類学会奨励賞の受賞が決定した。

澁谷准教授は、今回の受賞について「この度は、名誉ある賞をいただき光栄に思います。今回の賞をいただいた研究は、たくさんの共同研究者の方々のご指導・ご協力の賜物であり、深く感謝いたします。また、研究を支援いただいている企業の方々へ感謝したいと思います。この受賞を励みに、これからも筋疲労出現に影響を及ぼす要因に関する研究を続けていきたいと思います。」と関係各位に関する感謝と今後の抱負を述べた。これから更なる活躍が期待される。

日本生理人類学会奨励賞を受賞した澁谷准教授

TOPICS ⑪ 「長崎県発明くふう展」で電気電子工学科医療電子コースの川添准教授が大村市長賞を受賞

第58回長崎県発明くふう展（主催：㈳長崎発明協会）の表彰式が11月18日㈭、長崎工業技術センター（大村市池田）で行われ、工学部電気電子工学科医療電子コースの川添薫准教授の発明作品が大村市長賞（優秀賞）を受賞した。

川添准教授は昨年に続き2年連続の優秀賞受賞となった。

川添准教授が受賞した発明は「バルーン拡張式鼻腔前処置カニューレ」で、医療機関において経鼻内視鏡（鼻から挿入する胃カメラ）検査を行う前の処置段階で使用し、鼻腔部分の麻酔塗布と鼻腔内の狭い部分にバルーン拡張を同時に行うという発明。これにより、患者の苦痛緩和と鼻腔内の粘膜面の傷害防止に効果が期待される。

川添准教授は「この処置具を使用することにより、経鼻内視鏡における苦痛緩和と、検査時に発生する粘膜損傷が少なくなり、さらに内視鏡の検査が実施しやすくなる環境が整ったと考えています。これからもより良い医療用具を開発し医療の向上に寄与していきたい。」と今後に向け研究の意欲を語った。

表彰状と盾を手にする川添准教授

話題人

第10回全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会2010」で2種目制覇の快挙を成し遂げた経営情報学科の橋本佳一君

千葉県で開催された第10回全国障害者スポーツ大会「ゆめ半島千葉大会2010」の長崎県代表選手に情報学部経営情報学科2年の橋本佳一君が選出され、陸上競技「砲丸投げ」と「ジャベリックスロー（やり投げ）」において優勝し、2種目制覇の快挙を成し遂げた。感想と抱負などを本人に伺った。

全国大会2種目制覇の快挙を成し遂げた橋本君

これまでの練習や大会などで苦労した点は？

ジャベリックスローも砲丸投げも距離がなかなか伸びず、種目ごとに合った自分のフォームを見つけるのに苦労しました。

しかし、合ったフォームを見つけることによって徐々に距離を伸ばすことが出来ました。

今回の大会で得た成果（よかったことなど）は？

他県の選手や様々な年代や障害を持つ人たちと知り合い交流する機会を得て、とても良い経験が出来ました。

今後の抱負について

来年も全国大会にチャレンジ！そのためにも長崎県大会から全力で自己の記録を更新し、全国大会でも2種目2連覇できるように、これからも練習を頑張っていきたいです。

今回全国大会に出場し、2種目制覇した感想は？

全国大会への出場が決まってから、大会までの数ヶ月間の練習は、それ以前の練習にまして力を入れた練習が出来ました。その成果が結果として全国大会で発揮できたのでとても嬉しかったです。

学内での報告式で橋本君の金メダルを手にする貴島学長

全国大会での競技の様子。ジャベリックスロー（左）と砲丸投げ（右）。

オープンキャンパスを開催しました！

2010年度のオープンキャンパスを７月、８月、９月に３回開催し、今年も全国から多くの高校生、保護者の方々にご来場いただきました。

また、開催に伴う企画、準備、運営を学生スタッフが担当し、大活躍しました。

今後、個別に大学見学等を希望される場合には、気軽に入試広報課までお問合せください。

☆問い合わせ先：長崎総合科学大学入試広報課

フリーダイヤル：0120-801-253　E-MAIL：adm@NiAS.ac.jp

全国高校生アイデアコンテスト

今年もたくさんの高校生の皆さんに応募していただき有り難うございました。

第６回 デジタルメディアコンテスト

主催：情報学部知能情報学科
経営情報学科

◇デジタルアート部門

テーマ「未来のデジタル社会」

入賞　吉岡　美希さん
千葉県立柏の葉高等学校情報数理科３年生

◇ホームページ部門

テーマ「紹介ページ」

最優秀賞　河合　彩華さん
茨城県立水戸工業高等学校情報技術科２年生
（メンバー:石川美沙紀さん、野口翔太さん、堀紘明さん）

最優秀賞の受賞者は学園祭「造大祭」に合わせて開催された表彰式に招待され、当日はそれぞれの学部より表彰を受けました。

本学の全国高校生アイデアコンテストで最優秀賞ならびに優秀賞を受賞した者は、特待生Ｂの出願資格を得ることができます。１、２年生が最優秀賞、優秀賞を受賞した場合は、受験該当年度に特待生Ｂで出願する権利を有することができます。

いずれも「ＡＯ特待生入試」での選考となります。

設計アイデアコンテストで表彰される山口千明さん

山口さんのアイデアが実際に本学学生の制作により実現　仲良く記念撮影

デジタルメディアコンテストで表彰される萩野谷将君（代理出席）

デジタルメディアコンテスト表彰式での記念撮影

第13回 設計アイデアコンテスト

主催：環境・建築学部建築学科

テーマ「学園祭の受付＆メインゲート」

最優秀賞
山口　千明さん
山梨県立甲府工業高等学校３年生
作品名：５×COLOR BOX

附属高等学校 NEWS

☆教員と生徒が国体サッカー競技選手に選出

昨年秋に千葉県で開催された第65回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体２０１０」の長崎県選手団のサッカー競技選手に、附属高等学校の吉住貴士教諭（成年男子）と1年生の田中佑昌君と吉岡雅和君（少年男子）の3名が選出され活躍した。

附属高等学校サッカー部は、国見高校を率いて何度も全国制覇を果たした小嶺忠敏経営情報学科教授が総監督に着任後、めきめきと頭角を発揮。

国見高校の選手時代にともに全国大会優勝経験を持つ、定方監督（地歴科教諭）と吉住コーチ（体育科教諭）を加えた強力なスタッフ陣のもと、「第89回全国高校サッカー選手権大会　長崎県大会」でも準優勝した諫早商業高校から先取点を奪うなど、敗れはしたものの、全国制覇を目指して、日々の鍛錬に励んでいる。

国体に出場した吉住貴士教諭（中央）と田中佑昌君、吉岡雅和君

全国制覇を目指すサッカー部
写真は長崎地区大会一部リーグ戦の様子

☆男子バレーボール部が大躍進！
バレーボール競技長崎地区新人戦において３位入賞

昨年10月に開催された長崎地区新人戦において、附属高等学校男子バレーボール部が見事3位入賞しました。大会では、長崎南山高校、五島海洋高校、本校の3チームによる予選リーグを2勝してトップ通過。トーナメント戦では、準々決勝で瓊浦高校に勝利し準決勝に進出。優勝校の長崎北高校にフルセットの末、惜敗したものの、部員1年生6人のみのチームによる快挙で、今後の更なる躍進が期待される。

１年生６人のみで挑んだ新人戦で見事３位

バレーボール部の尾崎監督（理科教諭、左）と松林コーチ（英語科教諭）

☆長崎県高校駅伝大会に初出場で大健闘

第62回長崎県高等学校駅伝大会が11月5日、雲仙小浜マラソンコースにて開催され、男子の部（7区間42・195㎞）に附属高等学校が初出場。総合タイム2時間35分22秒で、50校中37位と初出場ながら健闘した。今回初出場を果たした駅伝チームは、陸上部員はおらず、7人全員がサッカー部からの助っ人選手。サッカー部は先日まで、冬の高校サッカー選手権大会予選を戦ったばかり。駅伝の練習は大会の2日前からはじめ、前日にコースの下見をした程度で本格的な駅伝練習は実施できないまま本番に臨んだものの、5区の郷野君が区間10位の力走をみせるなど、全員でゴールまで一生懸命走り抜き、附属高校の歴史に新たなページを刻んだ。

１区から２区への中継点。必至で襷をつなぐ。

駅伝大会出場した選手たちと顧問の原田教諭（左）

☆ライブラリーフェスティバルで優秀賞と優良賞を受賞

平成22年度　第7回ライブラリーフェスティバルが11月に開催され、附属高等学校図書部が「図書館広報誌コンクール県大会優秀賞」「図書館ＰＲ大賞コンクール県大会優良賞」を見事受賞した。平成25年には、全国大会も実施される。

図書部員が製作し、アレンジした飾り棚

☆文化祭と体育祭

第38回文化祭「なう！創ろう　総附伝！」が10月の2日間に亘り実施された。昨年度より始まった新企画、および2年生が中心となったクラス上演は大変盛況だった。

また、9月には体育祭も開催し、天気にも恵まれ、楽しい体育祭となった。

１年生全員で作成した木彫りの校歌

２年生による上演
イタリア出身の留学生アンドレア君も楽しく演舞

体育祭の新種目
「総附、風林火山」の様子

2011年度生徒募集要項

募集定員（普通科・男女共学）……120名
入学者選抜

(1) １次入試

一般試験

	一　般　試　験
出願条件	平成23年３月中学校卒業見込みの者および中学校を卒業した者。
出願期間	１月５日㈭～１月19日㈭　　場所：事務室（９：00～16：30）
試験日	１月25日㈫　８：30集合
合格発表	１月28日㈮　選考結果通知書を中学校へ郵送します。　掲示はしない。
入学手続期間	１月31日㈪～３月16日㈬

特待生・優待生試験（専願・併願）

	学業特待生・優待生試験	スポーツ特待生・優待生試験
出願条件	①平成23年３月中学校卒業見込みの者。 ②成績、人物ともに優れている者。 ③学費等の免除を希望する者。 ④専願：合格した場合、入学の義務がある。 （併願：他校受験可）	①平成23年３月中学校卒業見込みの者。 ②指定競技（サッカー、ヨット、野球）の優れた技量を持つ者で、本校入学後も部活動を継続する意志を有する者。 ③学費等の免除を希望する者。 ④専願：合格した場合入学の義務がある。 （併願：他校受験可）
出願期間	１月５日㈭～１月19日㈭　　場所：事務室（９：00～16：30）	
試験日	１月25日㈫　８：30集合	
合格発表	１月28日㈮　選考結果通知書を中学校へ郵送します。　掲示はしない。	
入学手続期間	○専願：１月31日㈪～２月７日㈪ ○併願：１月31日㈪～３月16日㈬	

(2) ２次入試（特待生・優待生試験は推薦・１次入試で定員を充足した場合は募集しないこともある。）

一般試験

	一　般　試　験
出願条件	平成23年３月中学校卒業見込みの者および中学校を卒業した者。
出願期間	３月14日㈪～３月17日㈭　　場所：事務室（９：00～16：30）
試験日	３月18日㈮　８：30集合
合格発表	３月18日㈮　16：00
入学手続期間	３月18日㈮　結果発表後～17：00、３月22日㈫　９：00～16：30

特待生・優待生試験（専願）

	学業特待生・優待生試験	スポーツ特待生・優待生試験
出願条件	①平成23年３月中学校卒業見込みの者。 ②成績、人物ともに優れている者。 ③学費等の免除を希望する者。 ④合格した場合、入学の義務がある。	①平成23年３月中学校卒業見込みの者。 ②指定競技（サッカー、ヨット、野球）の優れた技量を持つ者で、本校入学後も部活動を継続する意志を有する者。 ③学費等の免除を希望する者。 ④合格した場合入学の義務がある。
出願期間	３月14日㈪～３月17日㈭　　場所：事務室（９：00～16：30）	
試験日	３月18日㈮　８：30集合	
合格発表	３月18日㈮	
入学手続期間	３月18日㈮　結果発表後～17：00、３月22日㈫　９：00～16：30	

※スポーツ特待生・優待生

1　指定競技　サッカー（男子）、ヨット（男子・女子）、野球（男子）
2　野球のスポーツ特待生・優待生については、つぎの条件が必要です。
①野球技能優秀の上に、学業および生活態度が良好である者。
②所属中学校長が推薦する者。

2011年度　学生募集要項

■大学

項目＼制度		AO入試 AO特待生入試		一般入試 前期	一般入試 後期
募集定員	工学部	15名		33名	
	情報学部	10名		24名	
	環境・建築学部	10名		24名	
出願期間（消印有効）		9／1(水) ↓ 3／18(金)		1／6(木) ↓ 1／28(金)	2／15(火) ↓ 3／8(火)
試験日		随時		2／4(金) 2／5(土)	3／13(日)
合格発表日		10／15(金)、11／19(金) 12／17(金)	2／14(月)、3／8(火) 3／18(金)、3／25(金)	2／14(月)	3／18(金)
手続期限		1／11(火) （入学金） 1／28(金) （前期分授業料等）	3／31(木) （入学金および前期分授業料等）	3／1(火) （入学金） 3／11(金) （前期分授業料等）	3／31(木) （入学金および前期分授業料等）
試験場		原則として本学		長崎、佐世保、五島、対馬、那覇、鹿児島、宮崎、大分、熊本、佐賀、福岡、松山、広島、大阪、東京	長崎、鹿児島、福岡、広島、大阪、東京
受験料		30,000円		28,000円	

項目＼制度		センター試験利用入試 前期	センター試験利用入試 後期
募集定員	工学部	25名	
	情報学部	18名	
	環境・建築学部	18名	
出願期間（消印有効）		1／6(木) ↓ 2／4(金)	2／21(月) ↓ 3／11(金)
試験日		—	—
合格発表日		2／14(月)	3／18(金)
手続期限		3／1(火) （入学金） 3／11(金) （前期分授業料等）	3／31(木) （入学金および前期分授業料等）
試験場		—	—
受験料		13,000円	

項目＼制度		留学生 前期	留学生 後期	社会人・帰国生徒	編入学
募集定員	工学部	6名		若干名	
	情報学部	4名			
	環境・建築学部	4名			
出願期間（消印有効）		1／6(木) ↓ 1／21(金)	2／15(火) ↓ 2／22(火)	1／6(木) ↓ 1／28(金)	7／1(木) ↓ 2／25(金)
試験日		2／4(金)	3／13(日)	2／4(金)	随時
合格発表日		2／14(月)	3／18(金)	2／14(月)	随時
手続期限		3／11(金)	3／31(木)	3／11(金)	合格発表後3週間
試験場		長崎、福岡 大阪、東京	長崎、福岡 大阪、東京	長崎	原則として本学
受験料		14,000円		28,000円	10,000円

■大学院

平成23年4月入学者（二次募集）	
願書受付期間	2／10(木)～ 2／18(金)必着
学力試験	3／2(水)
面接	3／3(木)
試験場	本学
合格発表	3／10(木) 13時大学院掲示板
入学手続期間	3／10(木)～ 3／16(水)

Information

■資料請求受付中

女子目線から見た「女性のための大学案内パンフレット」が完成しました！

通常の「大学案内パンフレット」ならびに「大学募集要項」などの資料も受付中です。お気軽にご請求ください。

■長崎総合科学大学の特待生Ａ制度

特待生Ａ　**国立大学よりも安い学費**

センター試験利用入試及び一般入試での成績上位者（学力、人物の優秀な者）に対して、授業料を４年間免除します。

			センター試験利用入試	一般入試
定員：29名＋若干名 ４年間の学費合計1,720,000円 （2010年度参考）	工学部	前期	総得点の上位６名以内	各学科２名以内、合計６名以内
		後期	総得点の上位若干名	各学科若干名
	情報学部	前期	総得点の上位４名以内	各学科２名以内、合計４名以内
		後期	総得点の上位若干名	各学科若干名
	環境・建築学部	前期	総得点の上位４名以内	各学科２～３名以内、合計５名以内
		後期	総得点の上位若干名	各学科若干名

表紙の説明　ETロボコン2010チャンピオンシップ（全国）大会に出場した知能情報学科「NiASET」チーム

９月に開催された「ETロボコン2010九州地区大会」に情報学部知能情報学科の学生を中心とした「NiASET」チーム（顧問：下島真教授、代表：中嶋倫也君）が総合部門で見事、第３位に入賞。12月に開催された「チャンピオンシップ大会」（12月１日・２日、於パシフィコ横浜）に出場しました。

表紙は、チャンピオンシップ大会での写真。

Photo Kyoji Fujimori

編集後記

息子の保育園のおゆうぎ会が開催された。父母の熱狂ぶりに驚いた。朝９時からの行事というのに、場所とりのために、会場の公民館の前には、朝早くから親の行列ができている。早い親は朝４時から並んでいるという。まさに「行列のできるおゆうぎ会」である。この光景を見て「新・就職氷河期」といわれる大学生の就活の苦労を思い浮かべた。合同企業説明会の企業のブースでは、学生達が説明を聞くために行列を作り大勢並んでいる。ここ数年加熱する親の「場所とり」。そうした親の子どもたちが、今度は皮肉にも自分自身の人生の「場所とり」に苦労している。このような学生達が少しでも満足できる環境を作るため、大学に働く人間として、最大限の支援を注ぎたいと思う。（T）

健康維持のためジョギングを続けている。回数は減ったものの止めることができない。ルートはシーサイドキャンパスからスタートし近辺の海岸沿いを周る平坦なコース。早朝に出掛け、帰るころになると日の出を拝むことができる。シーサイドキャンパス人間環境学科棟のミラーガラスに映る朝焼け空がきれいで、いつか写真に収めたいと思いながら、カメラを忘れたり天気が悪かったりとタイミングが合わない。いつかはベストショットをホームページ等でお見せしたいと思います。（K）

詳細は入試広報課または大学ホームページ（http://nias.jp）参照
問い合せ先：入試広報課
☎ 0120-801-253
E-mail：adm@NiAS.ac.jp

※NiAS（ニアス）は、大学の英文名 Nagasaki Institute of Applied Science の略称です。

このＱＲコードで
本学携帯電話ホームページにアクセスできます